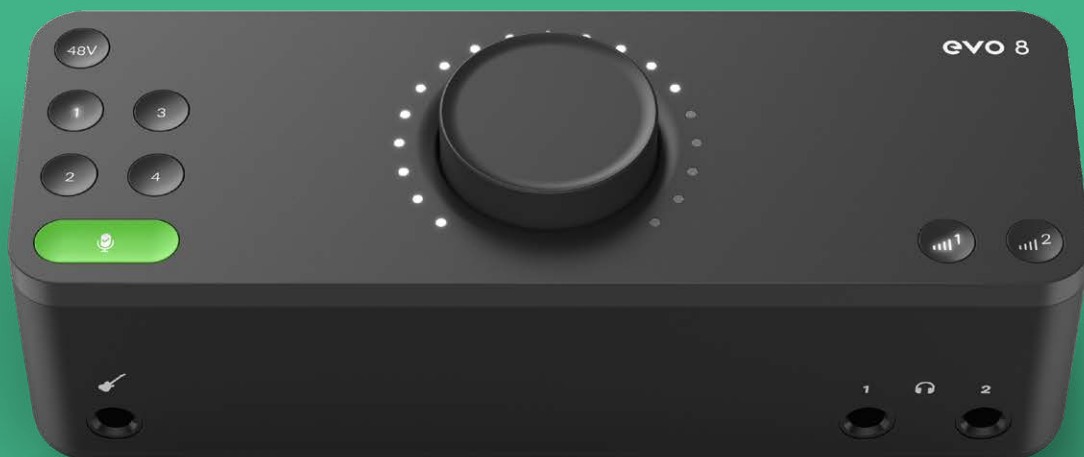


evo 8

4in/4out Audio Interface



User Manual V1.0

WELCOME

EVO 8をご購入頂き、ありがとうございます。本機は、オーディオやレコーディング分野のテクニカルな部分に煩わされることなく、クリエイターが制作に没頭できるようにデザインいたしました。

本機は、『スマートゲイン』テクノロジーを備えた4機のハイパフォーマンスのプリアンプ、高音質のJFET インストルメント入力、高性能AKMコンバーター、パワフルなヘッドフォンアンプを備えています。

EVO 8で貴方のクリエイティブな試みをお楽しみください。



EVO makes recording easy

01 オーバービュー

スマートゲイン
チャンネル 1 - 4
ファンタム電源
ボリュームノブ
アウトプットボリューム

02 安全にご使用頂くための注意

03 インストール / セットアップ

04 ARCの登録方法

05 ハードウェアの特徴

マイクプリ及びラインレベルインプット
スマートゲイン
ステレオリンク
ファンタム電源
インストルメント入力
ボリュームコントロール
ミューティング

06 EVO 8 アプリケーションソフト

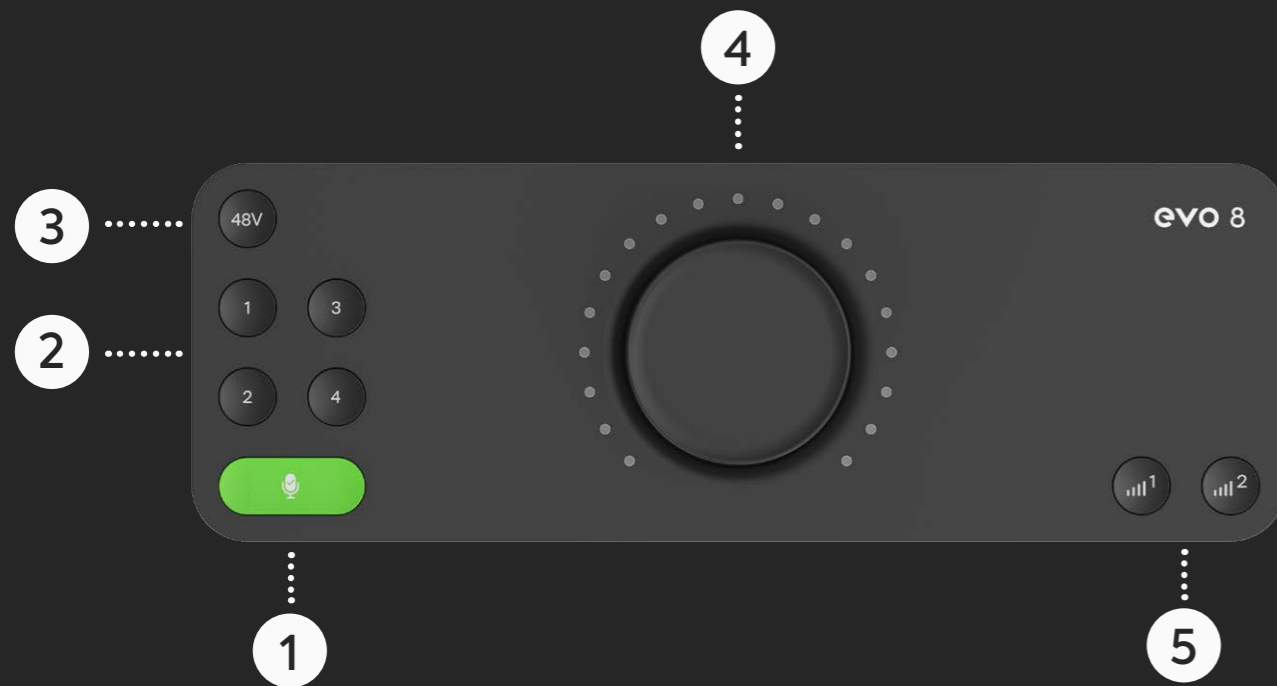
メニュー
EVOミキサー
拡張機能
設定の保存と開き方
EVO 8 でのループバックの使用
Macでのループバックの使用
Windowsでのループバックの使用

07 スペシフィケーション

08 ファームウェアのアップデート

09 品質保証に関して

OVERVIEW



01 スマートゲイン

演奏する、または歌うだけで自動的にゲインレベルを設定します。

02 チャンネル 1 - 4

スマートゲインによる両チャンネルのゲインリンク設定、ホールドによるミュートが可能です。

03 USBバスパワー → ファンタム電源

USBバスパワー電源からコンデンサーマイク用のファンタム電源が供給できます。

04 ボリュームノブ

スピーカー、ヘッドフォン、チャンネルをこれひとつでコントロールできます。

05 出力ボリュームボタン

ヘッドフォンとスピーカーのレベルを設定します。


安全にご使用頂くための注意

付属のUSBケーブルからEVO 8に給電する前に、マニュアル中のインストラクションや注意点をよくお読みください。

本機は高電圧で動作はしませんが、電気ショックや火災が起きないように安全な使用法に忠実に従ってください。

故障と思われるような症状が発生しても、本体を開けないでください。
その際はまずaudientのサポート: audient@allaccess.co.jpにコンタクトしてください。

audient@allaccess.co.jp

- 
- 01 マニュアルをよく読んでください。
 - 02 マニュアルを保管しましょう。
 - 03 『注意や警告』を守りましょう。
 - 04 インストラクションには従ってください。
 - 05 水の近くや湿気の多い場所で使用しないでください。
 - 06 クリーニングは乾いた布だけ使用してください。
 - 07 ヒーター、ストーブやアンプなど高温を発する場所や機材の上で使用しないでください。
 - 08 本機に接続されているケーブル類にご注意ください。
 - 09 本機と使用するアクセサリ等は、メーカーが認可したものを使用してください。
 - 10 近くで雷が発生していたり、長い期間本機を使用しない時は、コンピューターの電源をお切りください。本機とコンピューターとの接続ケーブルも外してください。
 - 11 水分がかかったり、故障だと思われる時に本機を開けないでください。
製品の修理は認可されたサービス機関でのみ修理可能です。
その際はまずサポート: audient@allaccess.co.jpにコンタクトしてください。

WARNING

感電などの事故が発生しないように、水の近くや湿気の多い場所では本機を使用しないでください。

インストール / セットアップ

macOSにおいては、EVO 8はドライバー無しでも動作します。

ルーティングやLoopbackの使用、ファームウェアのアップデート用にEVO applicationをインストールすることをお勧めします。

EVO 8 downloads pageページからアプリをダウンロードし、図のように.dmg fileをドラッグ&ドロップします。



EVO8をMacのUSBポートに接続します。使用中のMacにUSB-Aポートがない場合は、アダプターか dongle が必要です。

ここで、システム環境設定を開き、EVO 8をメイン入出力に選びます。

System Preferences > Sound



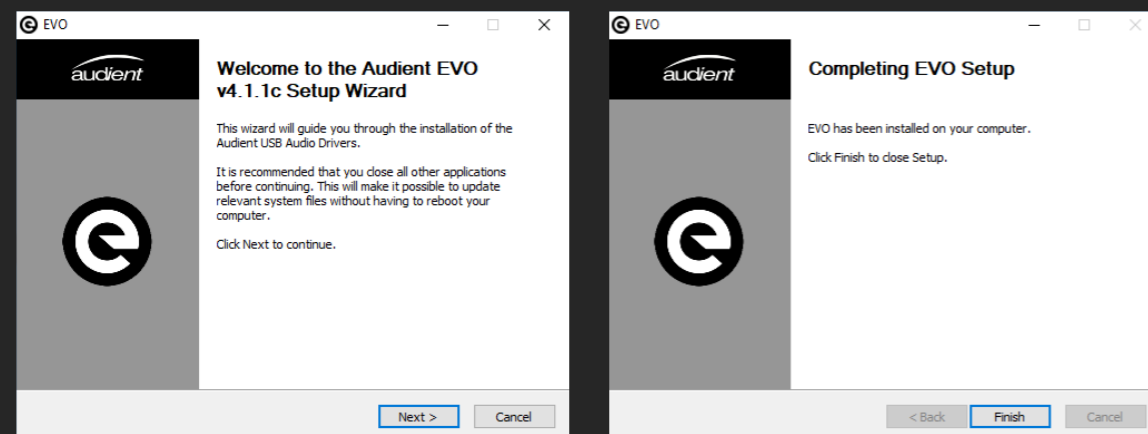
Select EVO 8 as input / output



インストール / セットアップ

EVO 8をWindows OSで使用する際はドライバーソフトが必要です。
EVO 8のdownloads pageからダウンロードしてください。

ダウンロード完了後.exe fileを起動し、インストールを開始してください。
スクリーンに従ってインストールを完了してください。
このプロセスは少々時間が掛かるかもしれません。



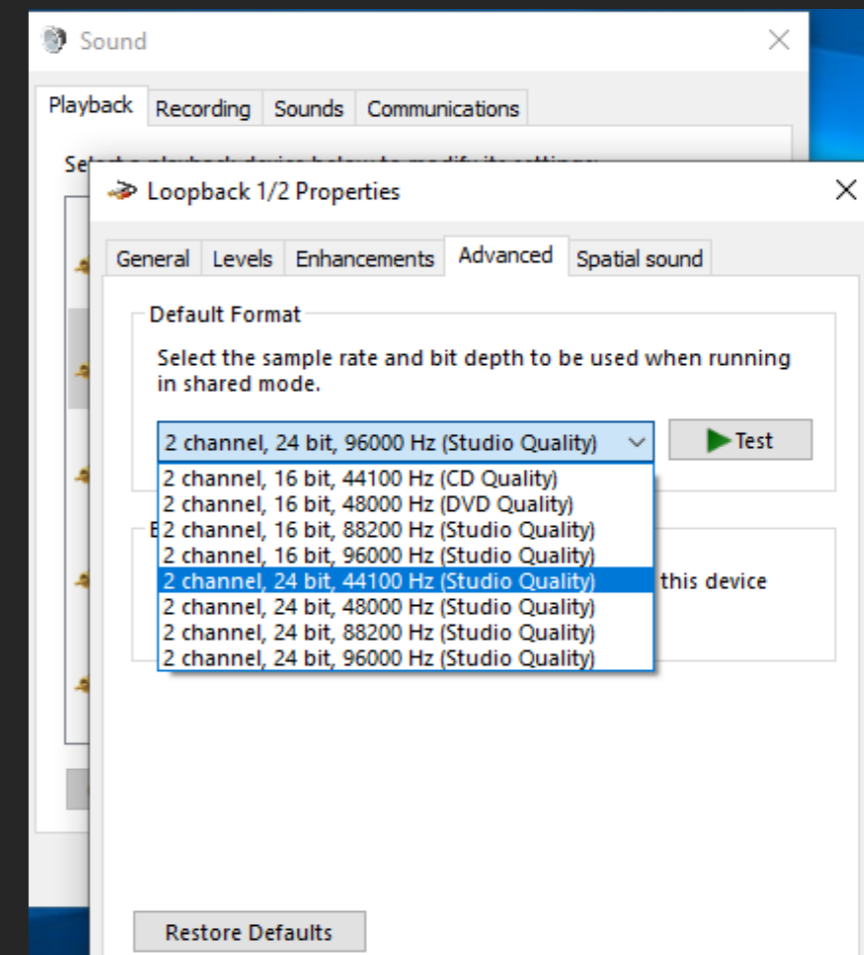
インストールが完了したら、FINISH (完了) をクリックして下さい。
ここで、EVO 8を付属のUSBケーブルでコンピューターと接続します。

EVO 8をサウンドデバイスとして設定するには、Control Panel > Hardware and Sound > Soundの順に進み、Playback (再生) タブを選びます。

リストからEVO 8 Main Output 1+2をクリック&選択します。

サンプルレート、バッファサイズなどの設定は、後のセクションをご覧ください。

Control Panel > Hardware and Sound > Sound



AUDIENT ARCの登録方法

EVO 8には、レコーディングに必要なプロフェッショナルソフトやサービスがバンドルされています。

arc.audient.comにアクセスしてお使いのデバイスを登録します。
完了すると、確認メールが届きます（届かない場合はspamや他のフォルダも確認してください）。

アカウントが認証されたら、シリアルナンバーと本体の下部にある4桁のPINコードを入力してEVO 8の登録を行います。

【製品の登録ページ】

- ・Name=名前
- ・Email=メールアドレス
- ・Password=パスワード
- ・Password confirmation=パスワード（再）
- ・Product=お持ちの製品名を選択
- ・Serial number=シリアル番号/ EVO 4のシリアルナンバーと4デジットPINが本体の底に貼られています。

登録したメールアドレスに、「Audient ARC - Email Verification」との認証メールが送られてきます。メール内の「Verify Email」またはリンクをクリックすると、アカウントが認証されます。

ARCの登録が完了すると、各々パワフルなツールの登録画面に移動します。

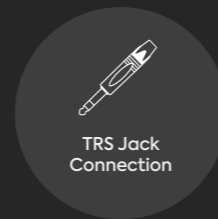
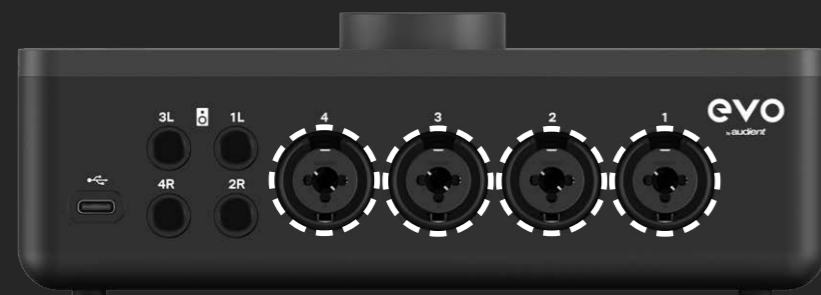


ハードウェアの特徴

マイクプリとラインレベル入力

本機には、コンボコネクター使用の4 xハイクオリティマイクプリが、リアパネルにあります。下図参照。

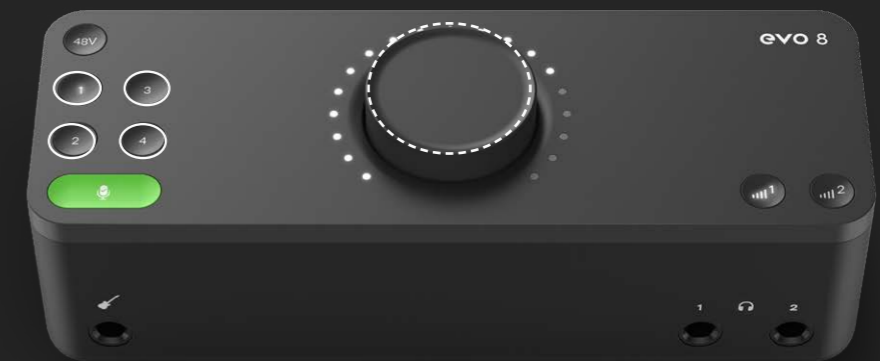
マイクの接続には、XLRケーブルを使用します。



ラインレベルのデバイスは1/4"TRSジャック (コンボコネクターのセンター) に接続します。ライン入力の接続には自動的にレベルが調整され、入力のオーバーロードを防ぎます。

EVO 8は、最適なレコーディング信号レベルが得られるように、入力信号レベルを4dB下げ、48dB上げることができます。

Volume Knob



入力ボタンを押してボリュームノブを回し、マニュアルで変更できます。その際、ノブの周りのLEDがゲインレベルを表示します。

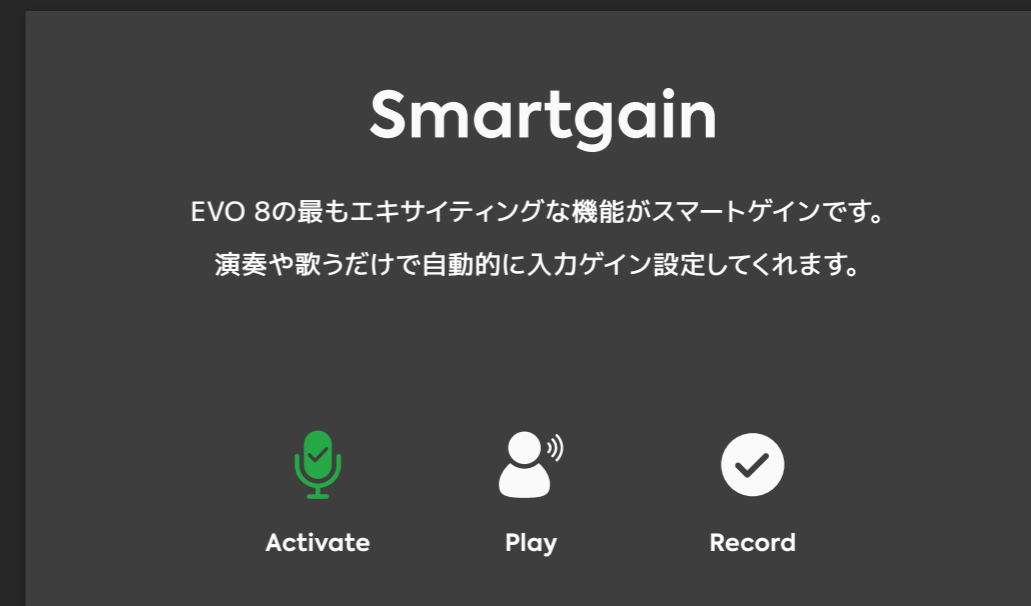
ハードウェアの特徴

スマートゲイン

EVO 8のスマートゲインは、曖昧なゲインレベル設定ではなく、完璧な設定を早く&簡単に行ってくれます。

スマートゲインの設定方法は次のページをご覧ください。

スマートゲインがゲインレベルを設定した後、微調整が必要であれば入力ボタンを押してボリュームノブで調整可能です。



Setup

- | | | | |
|--|--|--|---|
| <p>① スマートゲインボタンを押して始めます。</p> |  | <p>⑤ スマートゲインボタンがレッドに点滅始め、ボリュームノブのLEDが点灯し本機が認識していることを表します。</p> |  |
| <p>② スマートゲインLEDがグリーンに点灯します。入力チャンネル (1、2、3&4) が点滅します。</p> |  | <p>⑥ マイクやインストルメントから信号を入れます。</p> |  |
| <p>③ ゲインを調整する入力チャンネルを押します。</p> | <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 20px; height: 20px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin-bottom: 5px;">1</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 20px; height: 20px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">2</div> </div> | <p>⑦ スマートゲイン モードが正しいレベル設定を行い、それが完了するとスマートゲインボタンがグリーンに2回点灯して完了を表示します。</p> |  |
| <p>④ 再度スマートゲインボタンを押し、スマートプロセスを始めます。</p> |  | <p>⑧ これでレコーディングを開始する準備ができました。</p> |  |

ステレオリンク



チャンネル1+2、3+4はステレオリンクが可能です。
リンクされると両入力のゲインをマッチすることができます。

この設定は、ピアノやギターの2xマイクのステレオ録音や、シンセやDJデッキのステレオ信号に使用します。

1、2 (または3、4) ボタンを同時に押すと、ソフトウェアミキサー内の両チャンネルがステレオに認識され切り替わります。

リンクされている状態で1つのチャンネルを選択すると、自動的にリンクされているチャンネルも選択されます。

ファンタム電源



コンデンサーマイクの使用にはファンタム電源が必要です。48Vの電源はXLRケーブル経由でマイクロフォンに供給されます。

稀にファンタム電源がマイクロフォンにダメージを与える場合がありますので、マイクの説明書をよく読んでください。EVO 8でのファンタム電源の投入は、チャンネルを選択して48Vボタンを押すだけで完了します。このファンタム電源がオンのチャンネルは、LEDがレッドに点灯します。

NOTE : EVO 8がUSB-Aポートに接続 (給電) されているときは、2チャンネルしかファンタム電源は供給されません。

EVO 8がUSB-Cに接続され1.5Aが供給されていれば、4チャンネル全てにファンタム電源が供給できます。

インストルメント入力



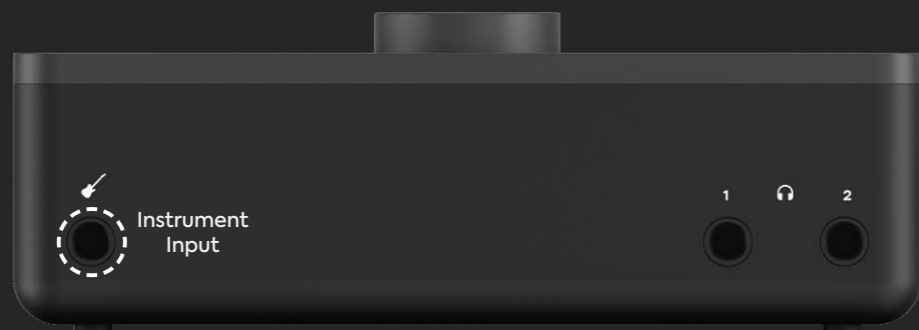
ギターやベースをダイレクトに接続できる入力を装備しています。インストルメント入力は、DI (ダイレクト・インジェクション) として知られ、インストルメントらしい良いトーンが得られるハイインピーダンス入力です。

フロントサイドにあるDIポートは、ギターアンプ入力同様のアンバランス (TS) の1/4"ジャックです。



ギターがこのインストルメント入力ジャックに入力されると、マイク/ライン入力からインスト信号がチャンネル1に接続されます。

その際、Mic/Line同様に設定するか、スマートゲインで入力ゲインを決めます。



ボリュームコントロール



EVO8は2つのアウトプットを個別にコントロールできます。ボリュームコントロールボタン1を押すと、1+2スピーカー出力 (またはヘッドホン出力1) の音量が調整でき、ボリュームコントロールボタン2を押すと3+4スピーカー出力 (またはヘッドホン出力2) を個別に調整できます。

出力ボリュームの調整には、それを行いたいアウトプットのボタンを押し、コントロールノブを回します。LEDメーターリングがボリュームレベルを表示します。

ミュートイング



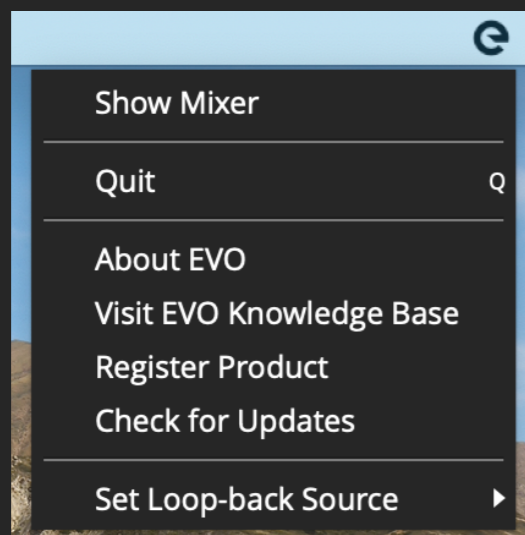
本機には出力と4つの入力をミュートする機能があります。いずれかのチャンネルボタンとボリュームボタンを同時に長押しすると、入出力ともにミュートできます。

この時、ボタンは点滅してミュート状態を表示します。ミュートの解除は、同じようにボタンを長押しします。

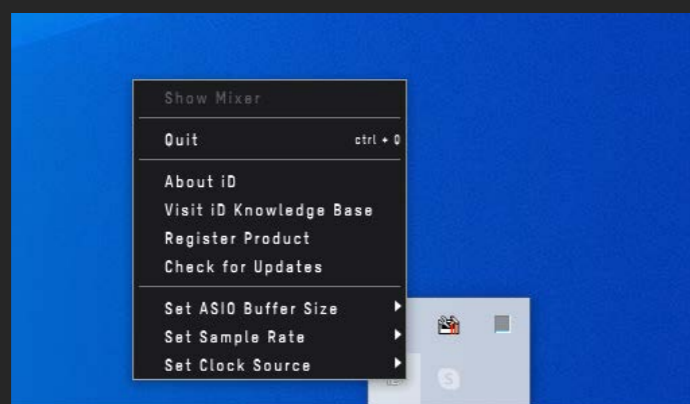
この機能は、ポッドキャスト中に緊急に音声を止めたいときなど、ミュートできる便利な機能です。

EVO 8 アプリケーションソフト

EVO 8には、コンピューターから簡単な操作ができるパワフルなアプリ (モニタリング、ループバックオーディオ) が含まれています。このEVOミキサーアプリケーションは、Macではメニューバー (スクリーンの右トップ) から操作できます。



Windowsではシステムトレイ (右下コーナー) から開くことができます。このメニューには次のようなオプションがあります。



このメニューでは以下のオプションへアクセスできます。

Show Mixer

ソフトウェアミキサーウィンドーを開きます。ミキサーの詳細な説明は25-26ページをご覧ください。

Quit

このアプリケーションを停止します。

About EVO (EVOについて)

ソフトウェア及びファームウェアバージョンなどのインフォメーションが表示されます。

Visit EVO Knowledge Base (audientヘルプ)

ダイレクトにaudientのサポートサイトにつながり、FAQガイドやヒント集を見ることができます (英語のみ)。

Register Product (製品登録)

EVO 8を登録するためのブラウザーが開きます。登録すると無料の特典やソフトウェアへのアクセスが可能になります。ARCに関する詳細は13-14ページをご覧ください。

Check For Updates (アップデートの確認)

このオプションではEVO 8のアップデートのリリースが確認できます。アップデートがある場合は、インストールを勧められます。

Set Loop-back Source (ループバックソースの設定)

ループバックインプットに送られるチャンネルを選択します。ループバックに関する詳細は32-34ページをご覧ください。

Set ASIO buffer size (ASIOのバッファサイズ)

ASIOのバッファサイズを変更できます。この設定は、如何にコンピューターがハードにオーディオをプロセスするかの設定です。

Set Sample Rate (サンプルレートの設定)

44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHzのサンプリングレートが選択できます。レコーディングに使用するソフト (DAW) のサンプリングレートと統一してください。

EVOミキサー

このEVOソフトウェアミキサーは、レコーディング、ミキシングや制作に於けるモニタリングを完璧にコントロールできます。



各フェーダーには以下の機能があります：

パンコントロール - オーディオをスピーカーの左右、又は好みの位置に定位させモニターすることができます。

ステレオ/モノ - 隣同士のトラックはステレオソース（シンセやステレオマイク）を録音する際にステレオリンクできます。

ソロ(S) - ボタンを押されたチャンネル以外、すべてのインプットがミュートされます。

ミュート(M) - トラックがミュートされます。

メーター - チャンネルのインプットレベルを表示します。信号が大きすぎる場合、クリッピングを示す赤いインジケータが表示されます。その場合はレコーディングソフトウェア内のインプット、又は音量を調整する必要があります。

フェーダー - 出力に送られる信号の大きさを決めます。+6dBの値に上げると、小音量の信号に+6dBのモニタリングゲインを加えることができます。

ミキサーは様々なソースから信号が送られてくる複数のチャンネルで構成されています。：

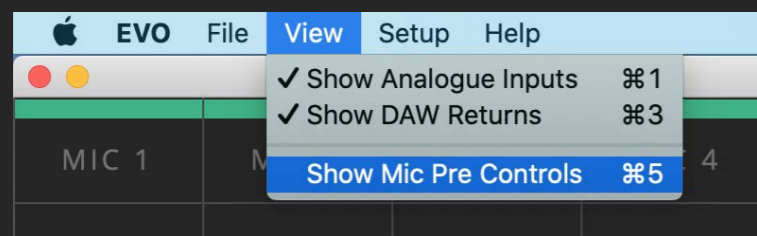
マイク1、2、3、4 - 4つのマイクロフォンインプットです。これらのチャンネルのフェーダーを上げると、非常に低いレイテンシーで、それぞれのインプットをスピーカー又はヘッドホンからモニターできます。

Mac 1+2、3+4、又はWindows 1+2、3+4 - コンピューター内のDAW、もしくはメディアプレイヤーやウェブブラウザからのプレイバックです。フェーダーを上げるとEVO 8を通して音声モニターできます。

右側のマスターセクションではアウトプット1+2とアウトプット3+4の出力レベルを個別に設定できます。右下の「目」のようなボタンを押すと、使用していないマイクやDAWチャンネルを非表示にします。

拡張機能

EVO 8 のマイクプリは、EVO ミキサーソフトウェアからコントロールできます。View (表示) メニューから“Show Mic Pre Controls”をクリックします。



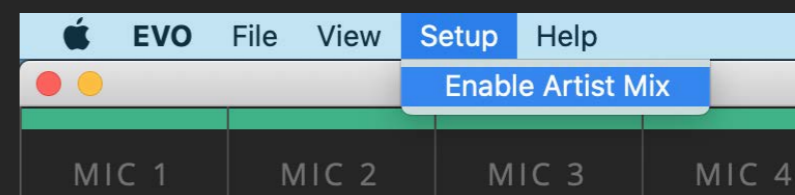
有効になると、それぞれのチャンネルの下にゲインコントロールと+48Vボタンが表示されます。



+48Vボタンを押すとファンタム電源がオンになり、ゲインコントロールで入力ゲインが調整できます。忙しい作業中に、パソコンから目を離さずに素早く設定を変更できます。

アーティストミックス - アウトプット3+4(ヘッドホン2)へ、別のミックス (アーティストミックス) を送ることができます。

Setup (セットアップ)メニューから、“Enable Artist Mix”をクリックし、それを有効にします。



ミキサーのマスターセクションにあるOutput 3+4をクリックすると、第二のミキサーが表示され (上部に黄色い線が引かれています)、アウトプット3+4へ送るオーディオが調整できます。



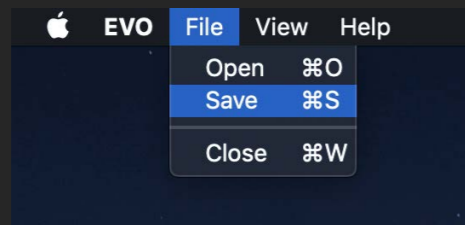
例えば、エンジニアがメインスピーカー(アウトプット1+2)を使用して全体のミックスを聴き、アーティストがヘッドホン(アウトプット3+4)を使用してクリックやマイクロフォンのダイレクトモニターを聴く、というモニタリングに適應できます。

構成の保存と開き方

EVO セッティング

セッティングを再度使用したい場合は、プリセットとして保存できます。全ての設定が保存され、素早く呼び出すことができます。

セッティングを保存するには、File(ファイル) > Save(保存)をクリックします。



セッティングに名前をつけてSaveを押します。設定を別のコンピューターやEVO 8ユーザーに送りたい場合は、Export Mixer Setting to Fileをクリックしファイルとして保存できます。



過去に保存したセッティングを開くには、File(ファイル) > Open(開く)をクリックし、一覧からそのセッティングを選択します。

保存されているセッティングを削除するには、隣の赤いXマークをクリックします。

ファイルからセッティングを開きたい場合は、“Load From File”を開き、エクスプローラーで開きたいセッティングを選択します。

ループバックの使用

EVO 8 には、コンピューター内のアプリケーションのオーディオを、別のアプリケーションに送るループバックチャンネルを備えています。この機能は、ビデオインタビューやゲーム実況に最適です。

ループバックオーディオは入力チャンネル5+6に送られ、EVOメニューから使用するループバックオーディオのソースを選択します。



MAC/WINDOWS 1+2

このオプションは、プレーバックソースをアウトプット1+2チャンネル (メインのプレイバックチャンネル) に送り、再生することができます。

MAC/WINDOWS 3+4

プレーバックソースをアウトプット3+4チャンネルに送り、再生することができます。

LOOP-BACK 1+2

プレーバックソースをアウトプット5+6チャンネルに送り、再生することができます。

MASTER MIX (マスターミックス)

EVOミキサーで作ったマスターミックスの音を使用します。マイクからの信号とループバックチャンネルの音を組み合わせ、1つのトラックにまとめるのに最適です。

ARTIST MIX (アーティストミックス)

アーティストミックスが有効になっている場合 (詳細は28ページ)、ループバックソースとして使用し、マイクからの信号とミックスできます。

Macでのループバック

まず、ループバックの音源ソースとして、ループバックチャンネルを使用するか、マスター/アーティストミックスを使用するかを決めます。マイク入力とループバックチャンネルの音を組み合わせる1つのトラックにまとめたい場合は、マスター/アーティストミックスの選択がおすすめです。

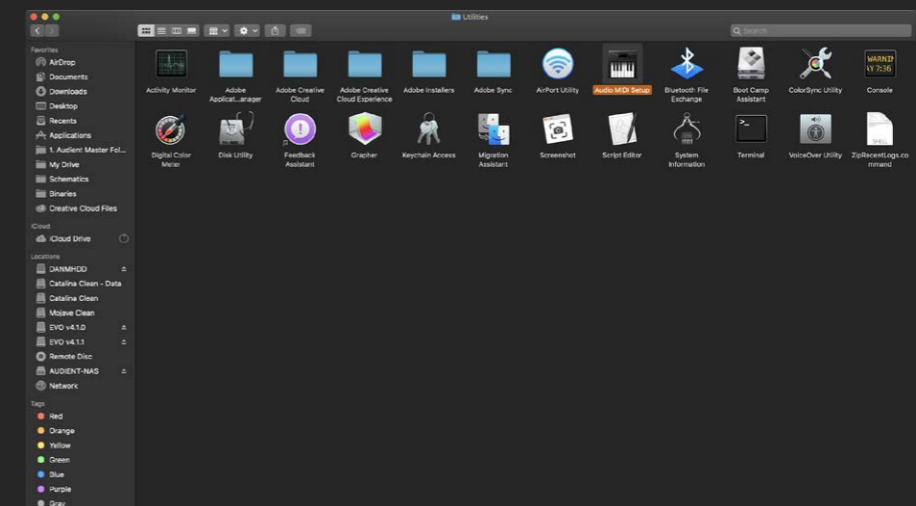
ループバックチャンネルを音源ソースとして使用する場合は、コンピューター出力をEVO 8のループバック出力に変更します。他のソフトウェアでは、ソフト内で変更できる場合があります。その方法に関してはソフトウェアメーカーのサポートを受けるか、マニュアルを参照してください。

ソフトウェアでこの変更ができない場合 (webブラウザー又はビデオコールサービス) は、出力セッティングをMac Audio MIDIセットアップで行います。

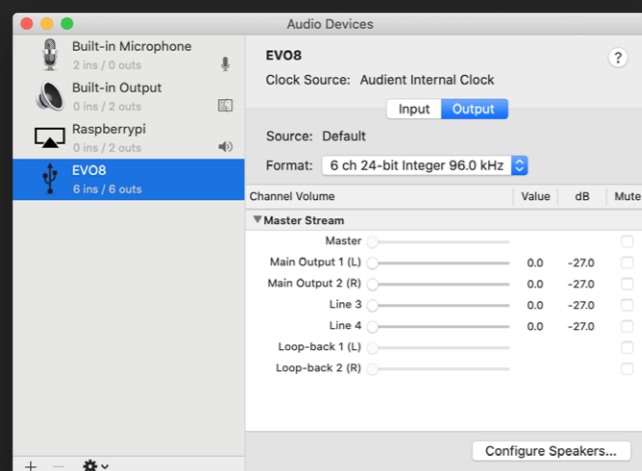
Mac Audio MIDIセットアップを開けるには、図のようにファイnderを開けてクリックします。:

Audio MIDI設定の場所:

アプリケーション > ユーティリティ > Audio MIDI設定.app



次に、デバイスリストからEVO 8を選択し、スピーカー設定をセレクトします。:

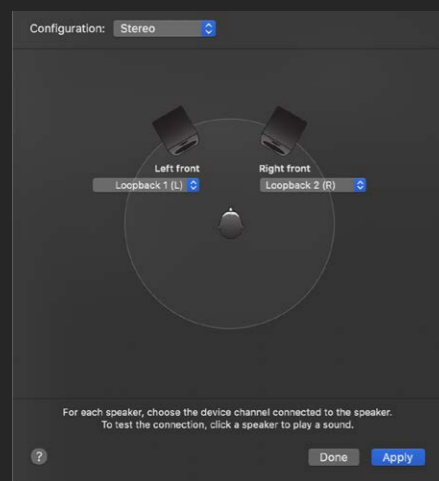


ここで、L&R出力がループバック1 (Loopback 1) L とループバック2 (Loopback 2) Rに設定されました。Macから奏でられるオーディオは、ループバック出力チャンネル経由で送られ、録音やストリームが行われます。

マスター/アーティストミックスを使用している場合、EVOミキサーを開きフェーダーを使ってミックスを作ります。

では、ループバック出力を設定しましょう。オーディオをキャプチャーするか、ストリームするために、ソフトウェアを開けてオーディオ入力をループバック入力にセットします。

ソフトウェアにもよりますが、信号はLoopback 1+2 又はInput 3+4に現れます。レコーディング又はストリーミングソフトでは、入力をモニターできるように設定します。



Windowsでのループバック

Mac OS 同様、ループバックチャンネル又はマスター/アーティストミックスが使用できます。

ループバックチャンネルを使用する場合、コンピューター出力をEVO 8のループバック出力に変更します。一部のソフトウェアでは、ソフト内で変更して設定できます。その方法に関してはソフトウェアメーカーのサポートを受けるか、マニュアルを参照してください。

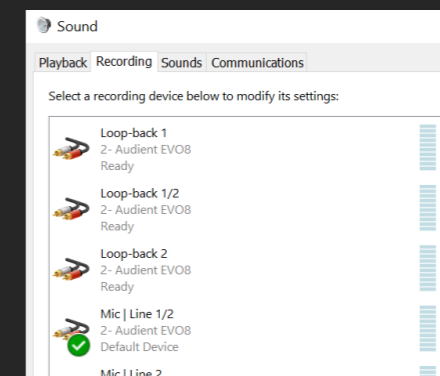
ソフトウェアでこの変更ができない場合 (webブラウザ又はビデオコールサービス) は、出力セッティングをWindows Sound Settingsセットアップで行います。

Control Panel > Hardware and Sound > Sound の順序で、プレイバックタブを選択します。

図のように出力デバイスリストからLoopback 1+2を選択し、『Set Default Device』デフォルトデバイスをクリックします。アプリはこれでオーディオをループバック出力 (Loopback output) へ送ります。

マスター/アーティストミックスを使用している場合、EVOミキサーを開きフェーダーを使ってミックスを作ります。

Mac同様、レコーディング又はストリーミングソフトを開けて、Loopback 1+2を入力に設定します。



スペシフィケーション

マイクプリアンプ :

マイクゲインレンジ :	58 dB
ラインゲインレンジ :	58dB with -10dB Pad
ファンタム電源 :	48V +/-4V @ 10mA/Channel (USB-Aホ ストコンピュータでは2チャンネルのみ)
CMRR :	>85dB @ 1kHz
最大入力レベル :	+16dBu
入力インピーダンス (Mic) :	>3kΩ Balanced
入力インピーダンス(Line) :	>10kΩ Balanced
周波数特性 :	+/-0.5dB 10Hz to 40kHz
クロストーク :	<-105dBu @ 1kHz & 10kHz
THD+N @ 0dBu (1kHz) :	<0.0015%
SNR :	100dB
マイク入力EIN :	<-128dBu
XLR :	Pin 2 (Hot), Pin 3 (Cold) & Pin 1 (Shield)
1/4" Jack :	TIP (Hot), RING (Cold) & SLEEVE (Shield)
D.I :	
D.Iゲインレンジ :	58dB
最大入力レベル :	+10dBu
入力インピーダンス :	1MegΩ Unbalanced
THD+N @ 0dBu (1kHz) :	<0.3%
SNR :	100dB
周波数特性 :	+/-0.5dB 10Hz to 20kHz
1/4" JACK :	TIP (Hot) & SLEEVE (Shield)

DAC 出力 :

最大出力レベル :	+11dBu
デジタルリファレンスレベル :	0dBFS = +11dBu
出力インピーダンス :	<100Ω Balanced
周波数特性 :	+/-0.5dB 10Hz to Fs/2
クロストーク :	<-110dBu @ 1kHz
THD+N @ -1dBFS (1kHz) :	<0.0015%
ダイナミックレンジ :	113dB A-weighted
1/4" Jack :	TIP (Hot), RING (Cold) & SLEEVE (Shield)

ヘッドフォン出力 :

出力インピーダンス :	<50Ω
周波数特性 :	+/-0.5dB 10Hz to Fs/2
クロストーク :	-110dBu @ 1kHz
THD+N @ -1dBFS (1kHz):	<0.0015%
ダイナミックレンジ :	113dB A-weighted
最大レベル 30ohms:	+0.5dBu, 0.0025% THD+N, 1.16Vpk Power: 45mW
最大レベル 60ohms:	+4.22dBu, 0.0015% THD+N, 1.78Vpk Power: 52mW
最大レベル 600ohms:	+10.1dBu, 0.0018% THD+N, 3.52Vpk Power: 20mW
1/4" Jack:	TIP (Left), RING (Right) & SLEEVE (Shield)

USB 2.0 HIGH SPEED

入力チャンネル	4 Analogue
出力チャンネル	4 Digital
コネクタ :	USB Type-C
同梱ケーブル :	1m USB 2.0 Type-C to USB Type-C

DSP ミキサーレイテンシー(IN → OUT) :

44.1 kHz	0.594ms
48.0 kHz	0.552ms
88.2 kHz	0.302ms
96.0 kHz	0.281ms

レイテンシーに関して :

レイテンシーのパフォーマンスは、バッファサイズ、CPUの負荷、OSによって異なります。

DAW 再生レイテンシー(@ 32サンプルバッファでのソフトインストルメントの再生) :

44.1 kHz	~2.5ms
96.0 kHz	~2ms

DAW ソフトウェアモニターレイテンシー @ 32サンプルバッファ(IN → OUT) :

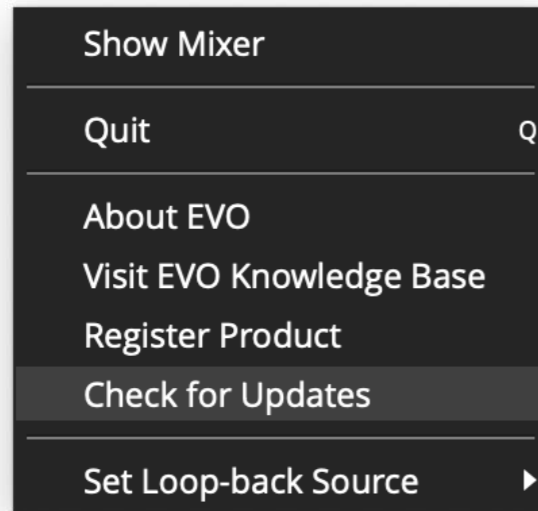
44.1 kHz	5ms
96.0 kHz	4.1ms

サイズ、重量 :

WEIGHT:	本体 :	475g
	パッケージ :	815g
DIMENSIONS:	本体 :	190mm (w) x 70mm (h) x 70mm (d)
	パッケージ :	230mm (w) x 105mm (h) x 95mm (d)

ファームウェアアップデート

ファームウェアをアップデートするには、EVO Application (アプリ) メニューで Update (アップデート) をクリックします。



この状態でコンピューターをネットに接続すると、EVO appがファームウェアアップデートの有無をチェックします。

ファームウェアアップデートがある場合は、直接インストールしてください。1分程度で完了します。このアップデートの前に、スピーカーのスイッチを必ずオフにしてください。

このアップデートプロセス中に、EVOは何度かリスタートがかかります。



品質保証に関して

本機は、audient日本総代理店 オールアクセスインターナショナル株式会社が、購入後1年以内の品質保証を行っております。修理の際は、購入時の保証書（購入期日及び販売店捺印必須）を提示の上、ご購入の販売店に御依頼下さい。保証書の提示が無い場合、保証内であっても1年以内の保証の対象にはなりません。

本書に記載された文章、図版、作品は、全て「著作権」及び、それに付随する「著作隣接権」等の諸権利を保有しています。弊社では内容を理解することを目的とする使用方法のみを許諾しております。

▲警告:安全のため、特に注意していただくこと

1. 異常があるときは、電源プラグをコンセントから抜いてご購入先もしくは、弊社迄ご連絡下さい。異常な音がしたり煙が出て異臭がした時などは、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。
2. 電気ショックを避けるため、本体を絶対に開けないで下さい。内部に触ると感電する恐れがあります。内部の調整や修理は、弊社にご依頼下さい。また、火事や感電を避けるために、湿度が非常に高い場所に置いたり、雨天の際に野外で使用することは避けて下さい。

▲警告:次のような場所での使用はできる限り避けて下さい。

- 湿度の非常に高い場所
- 砂やほこりが多い場所
- 台所、バスルーム、湿気の多い地下室など、水のかかりやすい場所
- 空気の循環を妨げる場所、ヒーターの近くや温度が高い場所

■取り扱いについて乾いた柔らかい布のみを使用して、外装をきれいに保ちましょう。

■サービスについて このマニュアルに記載されていない操作や取り扱いは行わないで下さい。記載外の使用方法で本機を使用されますと製品不良が発生する場合があります。必ず本書に基づいた使用方法で使用して下さい。

記載外の使用方法による破損や修理は、保証期間中の機器であっても保証対象外になります。本体の取り扱いは慎重に行ってください。万が一、負傷された場合でも弊社では一切の責任を負いません。

修理が必要な場合は、購入先もしくは弊社へ（メールのみの対応です。）ご連絡下さい。

Web : www.allaccess.co.jp

Mail : audient@allaccess.co.jp



audient 正規輸入代理店

オールアクセスインターナショナル 株式会社

営業所 〒490-1116 愛知県あま市本郷四反田2-7 ☎052-443-5537

www.allaccess.co.jp